

# ね、この本よんだ？



2021年度



図書館で発行している『としょかん通信』でご案内した  
「あたらしい子どもの本」のリストです。

絵本、読みもの、テーマ本の三つの柱にわかれた  
ブックガイドとなっています。

紹介した本は、図書館で貸出ご利用いただけます。

このリストが、子どもたち、そして大人のみなさんにとっても  
素敵な本との出会いのきっかけになりますように。



久留米市立中央図書館



『にんきものいちねんせい』

つちだのぶこ／え

小学館



このクラスは、みんなが“にんきものいちねんせい”。

たとえば、「みんなを げんきにする しょうくんは にんきものいちねんせい。」「おそうじめいじんの くーちゃんは にんきものいちねんせい。」こんなふうに、みんな何かの“にんきものいちねんせい”なんです。

あなたのまわりには、どんな“にんきものいちねんせい”がいるかな？ みんなもさがしてみてね。

『ぽっかりライトせんせい』

はっとりひろき／作

講談社



かいちゅうでんとうのぽっかりライトせんせいは家電のいしやさんです。具合の悪い患者さんも頭のライトでよ〜く照らせば、どこが悪いかわかります。今日もいろんな患者さんがやって来たようですよ！ さあ、ぽっかりライトせんせいに診てもらいましょう。

『クロベえ』

ふくだいわお／作

光村教育図書



ぼくの仕事はクロベえの散歩。クロベえは、もうおじいちゃんだから、歩くのは遅い、困ることもいっぱいあるよ。だけどね、どこかにくめない。それに、いろんな発見があるんだ。たくさん表情をもつ老犬クロベえ。ぼくのクロベえに対する温かなきもちが、あふれる絵本です。

『くさをたべすぎたロバくん』

トアヌスカ・アレプス／さく

ふしみみさを／やく

BL出版



草がだいすきなロバくんは、毎日おなかいっぱい草を食べてほかのものは食べません。オレンジもリンゴもブロッコリーもイヤ、草だけたべていればしあわせいっぱい。ところがある日、池にうつった自分のすがたを見てびっくり！草を食べすぎてみどり色になっちゃった！  
 ..好きなものしか食べない子どもも思わず笑って楽しめる、ユーモアあふれる絵本です。

『いえのなかと いえのそとで』

レウイン・ファム／さく

横山和江／やく

廣済堂あかつき



いつもと同じような日に、突然信じられないようなことがおこりました。世界のいたるところで、だれもがみな家の中に閉じこもったのです。いのちを守るために。そして外にでて大好きな人に会える日が来るのを信じて。いま、世界中のひとびとにおこっている大きな変化を、しっかりとあたたく見つめ、明日への希望を描いた絵本です。

『こんなかお、できる？』

ウィリアム・コール／さく

トミー・ウンゲラー／え

こみやゆう／やく



ねるじかんになってもなかなかねないフランスのために、パパはゲームをかんがえた。「これからパパがいうようなかおをできるかなってゲームだ。いいかい？はじめるよ」おこったかおに、まぬけなかお。うれしくてたまらないかおに、えらそうなかお。くるくるといろんなかおにかわるフランスみたいに、みんなもじょうずにできるかな？

『つくしちゃんとおねえちゃん』

いとうみく／作  
丹地陽子／絵  
福音館書店



つくしちゃんのおねえちゃんは2つ年上の4年生。あたまがよくてものしりで、ちょっとおこりっぽくていばりんぼうだけど自慢のおねえちゃんです。助けられたり、けんかしたり、小学生の姉妹の日常のおはなしが5つ語られます。やわらかい雰囲気の内挿がたくさん入った、小学校低学年から楽しめるよみものです。

『あおぞら子ども食堂』

いとうみく／作  
丸山ゆき／絵  
ポプラ社



ある日、お弁当を持って公園に出かけたハルさんは、ひとりの女の子と友達になります。一緒にごはんを食べながら、ひとりで食事をしている子どもが多いことを知ったハルさん。みんなが集まって楽しく過ごせる食堂を開こう! と思い立ちます。町のみんなも手伝って、ついに楽しい食堂が完成します。全国に広がる子ども食堂をあたたく描いた作品です。

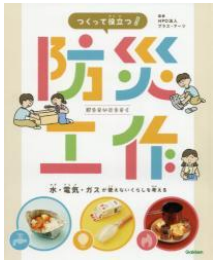
『ぼくんちのねこのはなし』

いとうみく／作  
祖敷大輔／絵  
くもん出版



こつらは十六歳のねこ。人間でいうと八十歳ぐらいのおじいちゃんです。最近食欲もなく、いたずらもせずにベッドの上で丸くなって眠っているだけ。動物病院の診察で治らない病気だと知り、こつらのためにできることはなにか考えます。家族みんなで死に向き合い、命の大切さや尊さを感じることができる作品です。

『つくって役立つ！防災工作  
水・電気・ガスが  
使えないくらしを考える』  
プラス・アーツ／監修



防災工作ってなんだろう？災害時に役立つ工作25点を紹介しています。被災時は生活がどう変わるのか、どんな備えや工夫が必要かについても触れながら工作を紹介。工作を通じて主体的に「防災」について考え学ぶことが出来ます。ひとつ作ってみたくくなりますよ。

『たとえ悪者なっても  
ある犬の訓練士のはなし』  
佐藤真澄／作  
静山社



中村さんは、人を咬むくせ(本気咬み)のある犬を専門にあつかう、犬の訓練士。自身のことを「愛犬救命訓練士」と名乗り、預かった犬たちに独自の訓練をおこない“いい子”に更生させて飼い主に戻す仕事をしています。その訓練は、時に体罰も伴い、まわりから虐待だと批判されることも…。犬にとって何が幸せなのか？この本を読んで一緒に考えてみませんか？

『防災サバイバル図鑑』  
国崎信江／監修  
金の星社



東日本大震災が発生した3月11日は「防災教育と災害伝承の日」とされています。日本で起こる可能性があるさまざまな自然災害を知り、家や学校だけでなくショッピングモールや帰り道で災害が起こった時に命をまもるために何ができるのか、どんな準備ができるのか、災害に負けない強さを身につけられる1冊です。